

FEATURE

REGAL 50TH ANIVERSARY

CELEBRATES 50 YEARS OF BOAT BUILDING EXCELLENCE

2019年10月、アメリカのボートビルダー「REGAL(リーガル)」は、創業50周年を迎え、フロリダ州キラーゴにて、各国のディーラーやメディアを集めたパーティー&ディーラーミーティングが開催された。花火が打ち上げられる中、19モデルによる華やかなボートパレードが行われたが、そのうちの5艇は2020年のニューモデル。今回はニューカマー「REGAL 38 SAV」と、昨年発表された「REGAL 33 SAV」を併せて紹介する。

text: Takayuki Kijima

photo: Kai Yukawa, REGAL MARINE INDUSTRIES

special thanks: REGAL MARINE INDUSTRIES

REGAL JAPAN www.regalboats.jp



50年の永きにわたり家族経営のボートビルディングを続けるREGAL アウトボードのニューシリーズ「SAV」が、REGALの新時代を切り開く

北米におけるボートビルダーの歴史は、コングロマリットによる吸収と合併の繰り返しだが、REGALは例外的だ。アメリカ合衆国フロリダ州



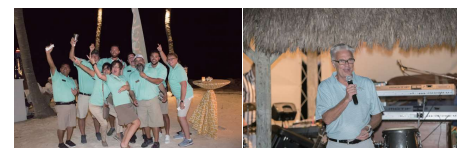
オーランドに本拠地を置く「REGAL(リーガル / Regal Marine Industries, Inc.)」が創業したのは1969年のこと。創業者はPaul & Carroll Kuck 夫 妻、そして Clark

Prudhon, Gene Kandel の2名が創業を財政的に支援した。以来、半世紀にわたり Kuck ファミリーが経営を続け、現在は Paul と Carroll の子どもたちが事業を承継している。さらに創業者の孫の世代も同社の業務にかかわっている。一貫した家族経営を続け、米国の独立系(株式非公開)ボートビルダーの中では最大規模の存在となっている。

もちろんその歴史は順風満帆だった訳ではない。オイルショックや景気後退は北米のボート産業自体に多大な影響を与えたが、REGAL は苦難の時代に多くを学んだ。「大きいことが常に良いとは限りません」という方

針の元、成長をコントロールし、無借金状態を維持、株式の非公開を貫き、家族経営を続けているのはこういった経験によるものだ。結果、株主を気にして四半期ごとのノルマ達成に四苦八苦せず、より長期的な目標に集中できるという。

大きな画期となったのは1995年に発表された艇体、「FasTrac Hull」



(ファストラックハル)だ。一種のステップハルで、低馬力で高速走行が可能、かつ低速時の保針性を高めた点が評価され、翌年、「IMTEC Innovation Award」を受賞した。その後、顧客満足度が評価され、「J.D. Power Award」や NMMA の「CSI Award」を多数受賞、現在に至っている。近年は意欲的にアウトボードモデルをマーケットに投入。従来の REGAL ではほとんど触れられることのなかった「フィッシングユース」に大きくシフトしてきた。今回のディーラーミーティングでも船外機艇が中心で、以前に比べると隔世の感があるのも事実。その野心的なラインナップの中に、REGAL の目指す新時代が見えている。



vimeo